

おごせ 教育 Pick Up

越生小学校



9月25・26日、6年生が梅園小と合同の修学旅行で鎌倉・箱根方面に行きました。ヒルトン小田原に宿泊し、名所旧跡の見学を通して、すてきな思い出を残すことができました。

梅園小学校

10月8日にサツマイモの収穫を行いました。5月に植えたサツマイモがすくすく育ち、縦割り班ごとに丁寧に土を掘りました。姿を現した大きなサツマイモにみんな大喜びでした。11月の収穫祭が楽しみです。



越生中学校



9月20日に、生徒会本部役員選挙が行われました。生徒一人一人が自分たちの代表について真剣に考え、投票しました。この選挙を通じ、生徒は民主主義の仕組みを学んでいます。投票にあたっては、越生町選挙管理委員会から本物の投票箱を借用しています。

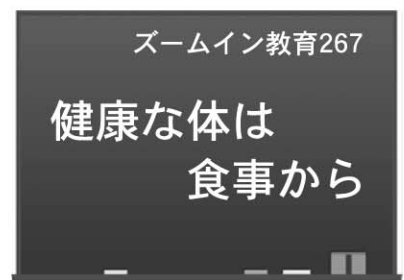


おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

乳幼児期の食事は、ただお腹を満たし、栄養を取るだけではなく、味覚を広げて自分が食べられる量を知っていくことが必要だと思います。そこで保育園では、完全給食・自園調理を行っています。そして命をいただいているから「いただきます」、作っていただいていることに感謝して「ごちそうさま」、嫌いだから食べないのではなく、自分が食べられる量を満遍なく食べられるようにしています。また食事のマナーも美しく食べられるように指導しています。

しっかり食事がとれる子は他の場面でも粘り強く頑張れたり、集中力があったり、発



山吹保育園



想が面白かったりということづくめです。保育園ならではのお芋ほりやクッキングも大事にしています。日々の食事で、そのような感謝の気持ちや美しく食べることを伝えながら食育に力を入れていきたいと思っています。



越生浪漫

No. 130

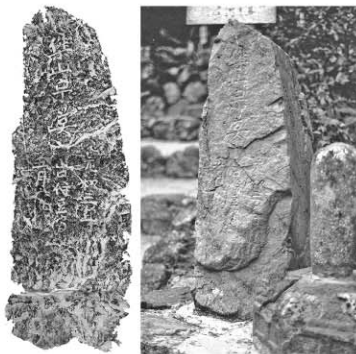
越生人物往来⑧

山口伊豆守重信、
河内国若江に果つ



龍穩寺歴代住職墓地（中央が山口重信の墓）

平成10年（1998）3月25日、龍穩寺の小林卓苗住職は、整備工事中の歴代住職墓地で「傑山宗英 元和三年五月六日 山口伊豆守」と刻まれた墓石を発見しました。偶然姿を現した歴史の証言者との対面に、小林師は鳥肌が立ったそうです◆文政13年



山口重信の墓（龍穩寺：左は拓影）高さ95cm

（1830）成立の『新編武蔵風土記稿』龍穩寺の項に次の記述があります。「山口周防守重政なるもの当寺に居りしという一中略—慶長十八年故あつて罪を得、当郡越生の龍穩寺に隠れ居り、同十九年大坂御陣のとき、重政その子伊豆守重信を携え、ひそかに役におもむかんとして、箱根の関に至るとき、関守これを通さず、よつて又龍穩寺に帰り、重信を商人の体に粧い立て出せしが、已に御和睦調いしかば重信又当所にかえりしとあり、されば山口父子当寺に寓居せしこと疑いなければ、住僧に問うにつまびらかならず」◆山口重信の墓は、東大

阪市若江にもあります。以下は墓前の解説板『山口伊豆守重信と若江の戦い』の全文です。「山口家は周防の守護大内氏の流れをくみ、重信の父但馬守重政が徳川家康より常陸国牛久に領地を与えられ大名となりますが、慶長18年（1613）嫡子重信の婚姻をめぐり幕法に反したとして領地を没収されます。このため、武功を上げて旧に復すべく、元和元年（1615）大坂夏の陣に井伊掃部守直孝率いる徳川軍（兵3200人）に父子で参戦しました。5月6日早朝、徳川軍は八尾楽音寺を発し、玉串川から若江堤へと進み、若江に布陣していた木村長門守重成率いる豊臣軍（兵4700人）と壮絶な戦闘を繰りひろげました。これが「若江の戦い」です。この戦いで、先陣を競い合った重

信は木村方の飯島三郎右衛門など5騎を討つ功をあげますが、武運拙く26歳の若さで戦死し、一方豊臣軍は木村重成が井伊方の家臣安藤長三郎に討ち取られ撤退しました。寛永5年（1628）、重信の武功により父重政に牛久など1万5千石が復され、のち次男但馬守弘隆が本領1万石、三男備前守重恒が5千石を継ぎました。墓は、兄重信の霊を弔うために弟弘隆が正保4年（1647）に墓碑を建立し、その後さらに弟重恒が承応3年（1654）に石柵を建立、家臣の山口忠兵衛重成が同年に石燈籠を寄進、弘隆の嫡男重貞が元禄5年（1692）に石花瓶を寄進し現在の姿と



山口重信の墓（大阪府東大阪市若江東6丁目「若江南墓地」）

なりました。墓碑前の石柱は若江村庄屋西村九郎兵衛の建立です。平成17年2月、東大阪市◆重信の三十三回忌に建てられた墓塔は、亀形の台石（亀趺）に乗り、上部に蟠龍（とくろを巻いた龍）を配した、意匠も優れた、総高4.5mの堂々たる遺品です。撰文した儒学者林羅山と象額の漢詩人石川丈山は、ともに当代一流の文人です◆第二寝屋川を挟んで対岸の八尾市幸町には、木村重成の墓が祀られています。浪速つ子には、豊臣方の木村重成の方が圧倒的に人氣があり、「無念様」「残念様」と呼ばれて人格化され、墓石を削って飲むと万病に効くという俗信まであったそうです◆山口重信の三回忌に建立された龍穩寺の墓は、当時父重政が高野山に閑居中であったことから、住職の鶴峰聚孫によるものと思われまゝ◆なお、山口父子については永井路子が「刺客」（短編集『執念の家譜』所収）、木村重成の最期は司馬遼太郎が「若江堤の霧」（短編集『俺は権現』所収）として小説化しています（越生町立図書館蔵書）。